

帝王切開の女性 育児ストレス高く

富大講師ら分析

富大学術研究部医学系の松村健太講師らの研究グループは、帝王切開で出産した女性は、そうでない出産女性に比べ、出産後1年半～3年半の育児ストレスが若干高いとの分析結果を発表した。「手が掛かる」など子どもに起因するストレスが特に高かった。

環境省が2010年度から実施する疫学調査「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」に参加する母親6万5235人を対象に、出産方法と、

出産後1年半、2年半、3年半時点での育児ストレスの関連を調査した。成果は2月15日、精神医学系専門誌「ヨーロッパ・サイキアトリー」に掲載された。